

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 8 6	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Hippocampus volume loss due to chronic heavy drinking. 海馬の容積は慢性大量飲酒で減少する	
執筆者	
Beresford TP, Arciniegas DB, Alfers J, Clapp L, Martin B, Du Y, Liu D, Shen D, Davatzikos C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res. 30(11): 1866-1870. (2006)	
キーワード	
エタノール、アルコール依存症、過剰飲酒、海馬	
要 旨	
<p>背景： 持続した大量飲酒が海馬の容積に与える効果については一定の見解はない。我々の以前の研究では、アルコール依存症ではない軽度飲酒者と比較して、アルコール依存症 (AD) の慢性大量飲酒者の海馬容積は有意に低下しているという仮説を提示した。</p> <p>方法： 以前に発表された研究から抽出した適用可能な一連の除外判断基準を用いて、3T スキャナーで得られた MRI スキャンデータから海馬容積を計測し、これらの結果を飲酒歴が分からない状態で自動容積分析によって解析した。</p> <p>結果： AD データ (n=8) を非 AD データ (n=8) と比較した結果から、海馬総容積と左海馬容積では有意の、右海馬容積ではほとんど有意の低下が認められた。線形回帰分析結果は脳総容積や頭蓋内容積は海馬容積の計測に影響していないことを示した。</p> <p>結論： これらの結果は、大量飲酒は海馬に対して特異的、選択的な障害を及ぼしているという観点を支持するものである。より多い例数での追加研究によって、この可能性を確認することはエタノールによる脳障害の機序を知る上で重要である。</p>	